



九条はらまち

福島県「はらまち九条の会」会報 No.249
2014(平成26)年10月18日(金)発行

●特に震災後、「津波犠牲者636名、小児甲状腺がん104名」などと統計の数で見たり考えたりしがちですが、当然“人の命は一つ”ですし、当人にとっては大変な“すべて”です。

“憲法9条のノーベル平和賞受賞” また 来年めざしましょう

「物事は一人から始まる」と言います。「憲法9条にノーベル賞を」の署名は、神奈川県座間市の主婦から始まり、署名は78カ国44万筆が集まりました。今回は広く国民や若い人々に「9条」をアピールできて良かった、さらに戦争の絶えない世界に「9条」の精神を拡大したという声も強いようです。また来年の受賞をめざし「署名」も開始されます。もちろん、マラウさん、サティヤルティさんの受賞も大変意義深いことです。

9月27日(土) 福島県九条の会・高橋哲哉氏講演会 <要旨>

「安倍政権はこの国をどこに連れて行こうとしているのか」

○会場:福島市 県文化センター

報告要旨・事務局早坂吉彦



高橋哲哉氏

9月27日(土)午後1時より、県九条の会主催の「講演会2014」が福島市県の文化センターを会場に約1000名参加で開催。本会事務局からは石田、栗村夫妻、志賀さん、そして早坂が出席しました。

第一部吉原泰助代表のあいさつと講師紹介。次いで佐藤真子さんのピアノ弾き語り「平和を歌う」の熱唱に会場は圧倒されました。

第二部の講師高橋哲哉氏は1956年福島県生まれの哲学者、東大大学院教授です。以下要点を記します。

極右勢力や「日本会議」に近い安倍政権

先日来、自民党の高市、稲田両議員がネオナチ団体の関係者とのツーショットの写真を撮らせ、ネットで公開されたとの報道や、同じく山谷国家公安委員長が、ヘイトスピーチやデモで問題の「在特会」関係者とツーショットで写真を撮らせるなど、極右勢力との密接な関係をうかがわせる情報がある通り、安倍政権には世界の流れとは異なり、ナチズムに対する嫌悪感が感じられない。

また、第二次改造内閣には、いわゆる安倍首相のお友達とも言える「日本会議」のメンバーが閣僚19人中15人もいる。「日本会議」は、従来から「国防軍の創設」など戦前回帰の提言を数多く掲げる、安倍政権を支える強力な団体である。しかし最近のマスメディアの動向は政権寄りの各社はともかく、朝日・毎日でさえ安倍政権に遠慮しているように思われる。

「国柄(くにがら)」という言葉で「国体」を復活

2012年4月に示された自民党の「憲法改正草案」を見ると、現憲法の三大原則「主権在

民」「基本的人権の尊重」「恒久平和主義」は表面的には受け継がれ、明記されているように見えるが、必ず留保がついて、実質的にはこれらの三原則はすべて、無効になるように巧妙に条文化されている。現代では「国体」といえば国民体育大会の略語として通用しているが、戦前の用語では「万世一系の天皇を戴く世界に比類のない国家の形」として全国民に認識されていた。自民草案では新たに「国柄(くにがら)」という用語を用いて、戦前の「国体」を復活させ、数々の法整備とともに「国のあり方」についての国民意識を変更しようと考えているのだろう。その本質と危険性を周知する必要がある。

悲しみを喜びに転位させる靖国神社

安倍首相の靖国神社参拝問題については、靖国神社が戦前どのような存在であったかを知る必要がある。昭和14年、当時の陸軍情報部監修指導による「靖国神社」という映画(当日、会場で上映された)によれば、戦死した兵士の遺族が「例大祭」に全国から招待され、天皇、皇族の列席の下で、慰霊の儀式が行われている。兵士である肉親を失った親や子の悲しみを、天皇を戴く国家のための尊い名誉の戦死と崇められて、喜びと誇りに転位させる場所であったと言える。

中国との戦争は絶対にしてはならない

最後に、尖閣諸島の国有化に端を発した中国との紛争に関して、石原慎太郎議員の最近の言動「シナと戦争して勝つこと」を例に引きながら、自分の意図通りに状況を作り出して行く彼の能力を過小評価すべきでないこと、また中国との戦争は絶対にしてはならないなどを結びとして講演を終了しました。

会員や市民の皆様から

▼2014年9月25日『福島民報』会員の投書

復興なくしては現状見れば虚言
南相馬市・佐藤 邦雄
(無職 82)

内閣改造後の記者会見で、安倍晋三首相は「引き続き経済優先を旨とし成長戦略の実現に全力を尽くす」と述べ、実行裏現内閣を強調した。

改造では骨格になる大臣のほとんどを留任させたという。そこには福島

の復興を担当する大臣は含まれていなかった。骨格になる大臣と認めていないのだから。

新復興相は早速、本県を訪れ「東北の復興なくして日本の再生はない。それは安倍内閣の一丁目一番地の最重要課題だから、肝に銘じて対応せよ」と首相から指示を受けたと述べた。内閣の最重要課題というのなら、

そこに全力を尽くすべきだろう。安倍首相は、言動が矛盾していることに気付いていないのだから。

本県入りする中央の政治家は「福島復興なくして」と口をそろえて繰り返してきた。東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から三年半。復興や再生が一向に進まない現状を見ると、その

みんなの
ひろば

＜事務局より＞

◆会報No.248に掲載のように、9月24日に南相馬市を訪問された東京都北多摩東退職教職員九条の会様から、このほど136,300円の方のカンパをいただきました。心より御礼と感謝を申し上げます。私たち被災者のことを大変心配されていて、「来年も訪問し交流会も開催したい」と話されています。

◆憲法9条のノーベル平和賞受賞のために、おひとり数百筆の署名を集められた会員もおられます。お疲れ様でした。今後も「粘り強く続ける値打ちある挑戦」(10月11日天声人語)として頑張りましょう。

◆「総会はいつ?」「春まつりに活動を」などの声も届き、気ばかりが焦っています。

山本義隆氏の本を推薦します

■「原発爆発直後の8月に発刊された本。元東大共闘議長で本来なら日本を代表し、ノーベル賞級の物理学者山本義隆氏の著作『福島の原発事故をめぐって』(みすず書房・1080円)を、ぜひ皆さんに薦めてください。理路整然と原発を、原発推進を批判してすごい本です。」(福島市 Wさん)

■「『あなたの福島原発訴訟みんなして「生業を返せ、地域を返せ!」』かもがわ出版¥1600+税を推薦します。原発事故の責任を追及し、あなたも原告・支援者になってください。」(原町区 Mさん)

■「1. ムラの鎮守の原発は／お祓い清めて再稼働／ドンドンヒヤヒヤ ドンヒヤリ／ドンドンヒヤヒヤ ドンヒヤリ／捧げるいのちの笛太鼓
2. 今年も電気は足りました／だけど献金足りません／ドンドンヒヤヒヤ ドンヒヤリ／ドンドンヒヤヒヤドンヒヤリ／ムラは総出の地鎮祭
3. 今日も海に漏れてます／今日も空へ飛んでます／ドンドンヒヤヒヤ ドンヒヤリ／ドンドンヒヤヒヤ ドンヒヤリ／ひばくに強い日本人

先日、集会で替え歌の笑歌「ムラ祭り」を教えていただきました。「原子カムラ」を皮肉る歌ですが、「ムラ」が蘇生し原発再稼働を目論み、事故の反省もなく、福島県も震災前と何も変わらず狂っています。」(原町区 Yさん)

■「9月13日・20日NHK・ETV特集『それでも道はできる』を見て涙が出ました。こんなに南相馬市のコメ農家が放射能と闘い苦悩しているのに、国も東電も昨年8月の事故原発からの放射能拡散を公表しないで、1年後の今になって発表だなんて、あまりに被災者を愚弄しています。

飯館村の酪農家の記録映画『遺言・原発さえなければ』(3時間45分)を横浜市関内で見、また怒りが込み上げてきました。」(原町区 Yさん)

◆北多摩の人々を迎えるため、栗村さんと早朝立看板の周囲を清掃していたら、近所の方がやってきて、「九条の会はどんな会なの?私も入れるの?」という事で説明し入会していただきました。活動しているつもりでも内輪の会ではいけない、もっと市民に分かり易くアピールしないといけないと思いました。事務局員もそれぞれ仕事を持ちながらの市民運動で大変ですが、頑張ります。(井上)

◆「会報No.245裏面の『新刊案内』は全て通読しましたか?」というメールがあり、ドキリとしました。元来、『新刊案内』は上から目線のように不遜な企画と自覚していました。でも、読まないではお薦めもできませんし、未読の場合は「まだ読んでないが」と但し書きをしています。(山崎)



＜「はらまち九条の会」事務局連絡先 市外局番はTEL0244＞○会長:平田慶肇 TEL24-1211
○石田賢二 TEL22-4037 ○早坂吉彦 TEL22-0326 ○番場恵子 TEL22-0715 ○志賀勝明
○事務局長:山崎健一(神奈川県に避難中TEL090-7527-5453 Eメール:yamazakiken1@gmail.com)
○会計:井上由美 〒975-0031南相馬市原町区錦町1-43井上薬局内 TEL22-7511・FAX26-0892
○ホームページ担当:大浦祥見 TEL24-0704:栗村文夫・桂子TEL090-8851-6904